



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

春も間近のこの頃となりました。穏やかな2014年を迎え、新たな気持ちで頑張ろうと気合を入れていたところで2月の大雪がありました。

8日、15日と2週連続で全国的・記録的な積雪となり、2014年豪雪災害と称され交通機関や農業などに深刻な被害をもたらしています。この2日とも出勤しましたが特に8日は吹雪のようで車での通勤はかなり怖い思いをしました。路肩から転落している車両をあちらこちらで見かけましたし、積雪が道路を狭くしているため対向車とすれ違うことも困難でした。報道では列車や国道の車列の中で多くの人たちが数日間夜を明かさなければならなかったことも伝えられました。この時に地域の住民の方々が炊き出しを行ったり自宅を開放して帰宅困難者を受け入れたりしたことを知り、物資の供給が止まっている中でも「困ったときにはお互い様」の精神を忘れずに行動できる人たちがこんなにもいることに驚きと感動を覚えました。不景気な世の中だ、いや、ちょっとだけ回復している、などと言われている中で、そんな事とは全く関係なく互いを助け合える人々がいる日本とはやっぱり豊かな国である、と改めて感じます。

さて、小倉病院ではと言いますと駐車場の除雪が大変でした。業者の大型車両で除雪をしてもらいますが、一度除雪してもすぐにまた積もってしまう、除雪のたびに職員の車両を建物下の駐車場に移動したり戻したりの繰り返しで、結果的に駐車場の端には見上げるような雪の山が出来上がりました。止められる車両も通常の7割程度になってしまったため、職員が交代で山を削り取る作業を連日行っていました。これは大変なご苦労だったと思います。その後は暖かい日が増えて徐々に雪は解けてなくなりましたが、2014年の冬は記録的な雪だったと後々まで語り継がれることになるでしょう。

表紙写真

写真タイトル：「 雪解けのクロッカス 」 撮影者： 樋口 孝 （広報委員長）

精神科病棟だより

〇1-3病棟レク 三九郎

平成26年1月14日（火）三九郎レクが行われました。

患者さんとスタッフが力を合わせてやぐらを組み立て、患者さんがスタッフに縄のしぼり方を教えてくださる場面もみられました。病院の正面玄関に飾ってあった門松・しめ縄も一緒に組み立てられ、立派なやぐらが完成しました。



やぐらに火をつけると、病棟の窓からも多くの患者さんが燃えているやぐらを見守っていました。あっという間に燃えてしまい、時間をかけて組み立てたのにと残念そうにしている患者さんもいました。

今回、初めて病棟で三九郎レクを行ったため、久しぶりに三九郎を見て、懐かしいと感動されている患者さんもいました。

火をつけると、勢い良く燃えました。



患者さんと一緒に、三九郎の土台を組み立てています。

〇2-2病棟レク 節分



平成26年2月12日（水）日本の伝統行事である節分を行い、患者さんに季節を感じていただくことができました。

日頃、怖い顔をしてレクに参加されない患者さんも、いつもは見せない笑顔を見せてくれ、鬼に向かって豆を投げることでストレス発散にも繋がり、また適度な運動にもなりました。レクの始めと終わりに歌を歌い、患者さんより「楽しかった」「また来年もやって欲しい」との声もあり、大盛り上がりのレクになりました。

レクの間、患者さんはにこやかに過ごされ、鬼に向かって豆をまくことで、悪いものを追い出し、素晴らしい春を迎えることができました。



病棟の男性スタッフ3名が鬼になりきり、レクを盛りあげました。

〇2-3病棟レク 雛祭り



2-3病棟では、少し早目の2月中に、病棟ホールのお座敷に七段飾りのお雛さまを飾りました。患者さんとスタッフが一緒に、楽しく飾ることができました。

3月に入ってから、病棟にてカラオケ大会を開催しました。普段、カラオケに参加されない患者さんも、口ずさんで楽しまれていました。

患者さんとスタッフが一緒に飾っています。

介護療養病棟だより

1-1病棟での精神保健福祉士の役割

地域医療保健福祉部 森山 いず美

医療機関における精神保健福祉士（PSW）の役割は、『常に権利擁護の視点を持ち、医療と地域生活の橋渡しをする』ことといわれています。

では、1-1病棟での精神保健福祉士の役割とは何なのか？

1-1病棟は他の病棟の中でも特に性質が異なります。他の病棟との大きな違いは、おおまかにいうと“介護保険”か“医療保険”かということです。介護保険は、医療保険に比べて経済的な負担が大きいのが特徴であり、医療保険で利用可能な社会資源（たとえば福祉医療の医療費控除等）が活用できず、ご家族の負担を大きくしています。そのため、ご家族への説明は慎重かつ丁寧に行っています。入院料の支払い額のために、当院への入院が難しいケースも多々あるため、少ない社会資源を駆使し、何とかできないかといつも頭を悩ませています。

次に入院の特徴としては、在宅からの受け入れが多く、退院の特徴としては、他院への入院・介護福祉施設等への入所が多く、在宅への退院も増えています。そのため、他病棟担当の精神保健福祉士より、ケアマネージャーやデイサービス等の福祉事業所との関わりが多く、患者さんに関する情報交換を定期的に面談や電話にて行っています。

入院後にご家族の方とも定期的話しをし、患者さんとご家族の要望を伺うと同時に退院後の生活に関わりがある方々に情報提供を行うことにより、退院後の生活時にどのような福祉・介護サービスを取り入れていったら良いかを院外関連機関の方々と検討していきやすくします。

このような連携をスムーズに行うためにも、精神保健福祉士として顔を売るように常に心がけています。普段は目立たずご家族や院外関連機関から知られていないこともありますが、「こんな時どうしよう？ そうだ！ あの人に聞いてみよう！」とお願いいただけるような存在になるために、これからも自己研鑽に努めてまいります。



ボランティア こだまの会

平成26年1月29日に「こだまの会」のみなさんによる紙芝居が行われました。紙芝居は、日頃病棟のスタッフがやっている紙芝居よりも、大きな手作りの絵を用い、演じ手も数人おり、内容に応じて声色を変える本格的なものでした。患者さんは話しに引き込まれ、真剣に見入っている様子でした。



みんなで長寿体操。

紙芝居の後には、歌に合わせて“長寿体操”をし、患者さんは楽しんで体を動かしていました。お帰りの時には名残惜しそうに握手をしながら「また来てね」と声をかけていました。



紙芝居の風景。

つるし飾り

精神科作業療法では、男女を問わず、裁縫が好きな患者さんを中心に、つるし飾りを共同で作っています。テキストを参考にしながら、飾りのイメージに沿うような布を用いて、制作に取り組んでいます。

患者さんにとっては、手指の器用さを発揮する場であるとともに、病院内での暮らしに四季折々の情景を取り入れることで、他者から喜んでいただけるという体験となっています。



右 →
節分
鬼のパンツ
← 左
バレンタイ



現在、病院のロビーにも作品を飾っています。
ご来院の際にはぜひご覧ください。

左)草履・三角薬包・俵などの三連
右)金魚の一連

トリアージ訓練



平成26年1月15日（水）病院前の道路にて多重交通事故が起きたという想定で、トリアージ訓練が行われました。

院長よりトリアージの方法についての説明後、訓練時の役割分担の確認をし、訓練に移りました。外来がない病院である当院は、緊急時の救急対応が久しぶりや初めてのスタッフも多く、意識を高める上でも今回の訓練は良い機会となりました。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

編集後記

年度末を迎え、桜の開花はまだ先のことですが、寒かった冬を思うと春らしくなってきました。今シーズンは、ここ何十年ぶりかの大雪に、いい加減にして欲しいと思いながら雪かきに追われました。

新年度より消費税が5%から8%に上がります。節約に心掛け、財布の紐を閉めて乗り切りたいと考えている今日この頃です。

広報委員長 樋口 孝